

# あつぎ郷土博物館 NEWS 4月号

## 石 から 木 へ

## 融合展示がリニューアル

基本展示室中央の融合展示コーナーでは、昨年1月の開館以来、「石」をテーマとして、地質・考古・歴史・民俗・生物の各分野の資料が展示されていましたが、4月から新たに「木」をテーマとして、各分野で「木」との関わりのある展示に替わります。

考古の分野では、太古からの人と木との関わり合いに着目して、「木を伐<sup>き</sup>る」と「木の葉を敷く」という2項目を取り上げています。

建築などに必要な木材を調達するため、人々は斧を発明し、使用してきました。斧の歴史は、古くは旧石器時代にまでさかのぼることが知られています。弥生時代の中頃までは、主に石で作られた磨製石斧が使用されていましたが、弥生文化とともに大陸から取り入れられた鉄の文化が広がると同時に、鉄製の斧が使用されるようになってきます。

縄文土器や弥生土器、土師器などの土器の底には、木の葉の痕が残されているものがあります。これは、土器を製作する際に、粘土が張り付かないように下に木の葉を敷いていたからだと考えられます。木の葉の痕は各時代の土器に見受けられることから、縄文時代から平安時代まで、木の葉を敷く伝統が受け継がれていたことが分かります。

融合展示コーナーは、毎年テーマを変えてリニューアルしていく予定です。



磨製石斧による伐採実験写真  
写真提供：市原市教育委員会  
(日本植生史学会/東北大学川渡農場で撮影)



木の葉を敷いた土器づくり再現写真

## 渡辺華山展を何倍も楽しむための基礎知識①

今年度の9月から11月までの予定で「優しい旅びと・渡辺華山」展—「厚木六勝」と「游相日記」—と題して特別展示を開催いたします。開催前に渡辺華山について知って華山にちょっとでも興味を持ってください。

### 渡辺華山とは？

江戸時代後期の画家であり蘭学者です。三河国田原藩の家臣の子として生まれましたが、渡辺家は、とても貧しく、華山は、幼少の時から描いた絵を売って生計の足しにしていました。その後、絵の才能を認められ、谷文晁の元で絵画を学びました。



「雨降晴雪」(厚木六勝より)

天保2年(1831)9月、門人の高木梧庵と共に厚木までを旅し『游相日記』を記しています。『游相日記』には、厚木までの街道の風景や厚木において俳人や画家などの文化人と交流した様子などがスケッチを交えて書かれています。厚木に滞在中に求められて、描いたものが『厚木六勝』(ハーバード美術館蔵)であり、今年度の特別展示において、複製画を展示する予定です。

蘭学者としての華山は、世間から高い評価を受けていましたが、それが原因となり、天保10年(1839)投獄され(蛮社の獄)、その後蟄居の判決を受けました。華山は家族と田原で蟄居生活を送りましたが、蟄居中は、画業に専念していました。生活はとても貧しかったので、門人らが華山の絵を密かに売っていましたが、その事が幕府に露見されると誤解し、田原藩や藩主に迷惑が及ぶ事を恐れて自刃しました。49歳でした。

## 4月の博物館の予定

新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、4月30日(木)まであつぎ郷土博物館及び古民家岸邸を休館といたします。なお、休館中もあつぎ郷土博物館においてレファレンスの対応はさせていただきますので、お電話等でお問い合わせください。(ただし、平日に限ります。)



(申込み・問合せ) **あつぎ郷土博物館**

〒243-0206 厚木市下川入1366-4 電話 046-225-2515

[Mail 8650-3@city.atsugi.kanagawa.jp](mailto:8650-3@city.atsugi.kanagawa.jp)

FAX 046-246-3005